

No.
80

前置詞の2つの習得法

「この列車はその駅に [で] 止まる」

This train stops *at* the station.

という文で、「に」「で」に *at* を用いることをどのように覚えるか。
その方法は大きく2つに分かれます。

《方法1》「駅に [で]」の「に」「で」は、*at* が原則とまず覚え、
“アット・ザ・ステーション”(at the station) と、
ひとつの単語のように覚えてしまう。

《方法2》*at* を **点** のイメージでとらえる。

列車の路線図などに記載された駅は“点”として
感じるから *at* になる。

全体をひとつの単語のように受け取る

という《方法1》の根底にある姿勢は、すでに紹介した有効な
やり方です (No.22)。

また、《方法1》は、

「で」「の」「に」「から」...

といった日本語を出発点、かつ、中心にすえるやり方です。

《方法1》と《方法2》—この両方の方法を織り交ぜながら、
それぞれの長所を活かして、前置詞を身につけていく。これが、
理想的な前置詞の習得法なのです。

No.
81

in と at

今度は、前置詞の習得《方法2》にしたがって、混乱しやすい
前置詞を比較してみましょう。

in : **枠** や **囲い** をイメージする。つまり、
同じ平面にあり、隣の領域との **境界線** を感じる。

at : 隣の境界線を持たない、孤立した **点**。

新幹線開業当時、その名前が示すように、世界で一番速い列車
『ひかり』号の停車駅は「東京」「名古屋」「京都」「新大阪」
でした。今では、これより速い列車も登場し、停車駅もさまざま
です。新幹線の駅のホームには電光掲示板などで停車駅が表示
されます。そういったものを頭に浮かべるとよいでしょう。

表示される停車駅どうしは隣り合っておらず、孤立した“点”
ととらえることができます。したがって、「この列車は名古屋
に止まる」の「に」には前置詞 *at* を用いて、

This train stops *at* Nagoya (Station).

と考えていきます。

一方、同じ「名古屋に」でも、「昔、私は名古屋に住んでい
ました」の「に」には前置詞 *in* を用います。

I used to live *in* Nagoya.

この *in* からは「名古屋」に隣接する市町村をイメージできます。
“点”ではなく、“枠”“囲い”ですから、平面的な広がりも感じ、
そこで日々の生活が営まれていたことをも想像させる場を作り
出します。

- Q 1. [選択] 「この駅で降りなさい」 Get off [in / at] this station.
2. [選択] 「京都に住みたい」 I want to live [in / at] Kyoto.